

諸外国のBSL-4施設のいま

一街にとけ込む研究施設

長崎大学は、感染症対策強化のための国策の一つとして位置付けられている新しい感染症研究施設「BSL-4施設」を坂本キャンパス（長崎市坂本1丁目）に設置する計画を進めています。一方、坂本キャンパス周辺の住民の中には「病原体が外部に漏れるのでは」などの不安もあります。そこで、昨年2月と今年1月に欧州のBSL-4施設の視察に参加した市民らの声を紹介します。

海外の実情



地域と共存 市街地に立地も

BSL-4施設は1960年代後半から稼働し、現在は欧米を中心に24カ国、59カ所以上あります。その多くは市街地の中にありますが、安全性の高い施設であり、これまで病原体が外部に漏れ出す事故はありません。

こうした現場を直接確かめようと、坂本キャンパスの近隣住民も参加する地域連絡協議会の委員4人は昨年2月、ドイツにある3カ所の施設を視察しました。このうち、ドイツ北部のハンブルクにあるベルンハルト・ノホト熱帯医学研究所のBSL-4施設は1982年に稼働開始し、2014年からは二つ目の施設も使われています。観光船の到着場から歩いて5分で、道路向かいにはホテルや飲食店街などが並びます。施設内は、多重の隔壁や空気の陰圧制御などの安全対策が講じられており、厳重なセキュリティーの下で、専門教育を受けた人しか入室が許されません。他方で、施設外には侵入防止の柵やフェンスなどはありません。

今年1月には長崎市議会議員7人がベルンハルト・ノホト熱帯医学研究所と、スウェーデンの首都ストックホルムにある国立感染症対策研究所のBSL-4施設を訪れました。スウェーデンの施設は大学キャンパスのそばにあり、5キロ圏内には王宮、市役所、国会などがあります。



視察参加者の声

ドイツ・スウェーデン

野口 達也氏 長崎市議会議員
研究者と話し高まる安心感
欧州ではBSL-4施設がなせ街にあるのかという点に強い疑問を持ち、長崎の街と重ね合わせながら視察しました。ハンブルクの研究所は近郊の丘の上で、長崎の街と旧県庁から南へ向かう通りのような場所にあります。定期検査中や実験室の中に入ることができ、しっかりと密閉された造りを直接確かめました。

橋本 剛氏 長崎市議会議員
認識のずれ近づける努力を
ドイツやスウェーデンのBSL-4施設は、ハート面はもちろん、研究内容をオープンにした上、研究者の背景や精神状態まで把握しつづけるなどソフト面もつづけているという印象でした。そして、周辺住民も施設の存在を知っているという努力が求物として受け止められている様子でした。これらの施設で扱うウイルスは実は感染力が低く脆弱なものであることが多いです。一般人は感染力が高くても危険な物と捉えがちです。長崎大学が進める計画を巡っても、市民と住民との間にあるこうした認識のずれをいかに埋めていこうかが重要だと思います。

深堀 義昭氏 長崎市議会議員
共存共栄へ重要な信頼関係
ドイツは港町「スエーデン」は大学キャンパスに施設が隣接しており、長崎を思わせる街並みの中に佇まぬいままに、施設の関係者と話すことで地元の理解を得て共存していることでした。社会保障制度が充実し、市民が国や自治体に信頼を寄せていることが背景にあると見えます。私は坂本キャンパスのそばに長年住んでおり、地域住民は熱帯医学研究所や医学部、大学病院と共存していると考えています。BSL-4施設が設置されるに当たって、長崎大学が安全対策の全容が現時点では見えておらず、今回の視察をBSL-4施設のある現場を参考に、疑問があれば大学側に尋ねていくという思いです。

寺井 幹雄氏 地域連絡協議会 公募委員
「実績」に検証加えて整備を
今回視察した施設の大半は市街地の中に自然な形で存在する所がありました。ハンブルクの施設は建物のそばに自転車置き場があり、窓越しに施設内を見ることができ、オープンな印象を受けました。実験室への入室時のシステムをはじめ、病原体を取り扱う安全キャビネットや換気設備などについても、地域の理解もさらに深まるのではないか、と考えています。BSL-4施設が設置されるに当たって、長崎大学が安全対策の全容が現時点では見えておらず、今回の視察をBSL-4施設のある現場を参考に、疑問があれば大学側に尋ねていくという思いです。

原 拓也氏 地域連絡協議会委員
安心感を得る努力不可欠
ドイツでは、大学のキャンパス内にあるBSL-4施設という立場を明確にしており、物々しきだけでなく、「安全」を感じることができました。大学らしく、物理や化学の基礎研究施設、医学系の臨床研究棟、植物園なども敷地内にありました。長崎大学は坂本キャンパスに施設を計画しています。施設は関係機関と連携することで初めて効果が発揮されるとも思います。予定地には医学部や熱帯医学研究所があり、長崎大学病院も隣接しているため、充実した研究ができるのではないのでしょうか。また「安全」だけでなく、「安心」を得る努力も必要です。不安を抱いてしまうと、人は不安を抱いてしまいます。施設ができた後、運営や研究内容などを市民に定期的にオープンにすることで、安心が得られることには、この施設が子どもたちの憧れになることを期待しています。

地域と共生した研究拠点に

長崎大学長 河野 茂

内科医として長崎大学病院で医療活動に長年携わるとともに、肺炎や結核など呼吸器感染症の研究をしてきました。国境を越えた人の移動がますます増加する中、病原性の高い感染症がいつ日本に入ってくるかわかりません。長崎大学ではこれまでの実績や優れた研究者を生かし、BSL-4施設を中核とした世界有数の感染症の研究拠点を、安全性を十分に確保しながら形成する考えです。この拠点における研究や人材育成を通じて、感染症の脅威から世界や日本人々々を守り、安全・安心な国際観光都市長崎に貢献し、地域と共生していきたいと考えています。

新年度は施設の着工を計画しております。住民の皆様にはBSL-4施設を取り巻く状況をしっかりとご説明し、長崎大学の計画に一理解をいただけるよう努めます。この施設に対し不安な気持ちをお持ちの近隣住民の方もしつらなご心配はご無用です。これから丁寧な説明を努めていきます。

長崎大学のBSL-4 施設設置計画

研究通じ 人類に貢献へ

病原体の研究施設は、世界保健機関（WHO）などが定めた安全管理の基準に基づき、取り扱う病原体のレベルなどに応じて、研究施設の安全性に関する基準であるBSL-1、2、3、4のレベル、基準の数字が大きくなるほど安全対策が強化される。BSL-4施設は、エボラウイルスやラッサウイルスなどは、治療法がなく致死率が特に高い病原体であり、実験室を密閉構造にし排気フィルターを二重にするなどの、

病原体の研究施設は、世界保健機関（WHO）などが定めた安全管理の基準に基づき、取り扱う病原体のレベルなどに応じて、研究施設の安全性に関する基準であるBSL-1、2、3、4のレベル、基準の数字が大きくなるほど安全対策が強化される。BSL-4施設は、エボラウイルスやラッサウイルスなどは、治療法がなく致死率が特に高い病原体であり、実験室を密閉構造にし排気フィルターを二重にするなどの、

BSL-4施設は、世界保健機関（WHO）などが定めた安全管理の基準に基づき、取り扱う病原体のレベルなどに応じて、研究施設の安全性に関する基準であるBSL-1、2、3、4のレベル、基準の数字が大きくなるほど安全対策が強化される。BSL-4施設は、エボラウイルスやラッサウイルスなどは、治療法がなく致死率が特に高い病原体であり、実験室を密閉構造にし排気フィルターを二重にするなどの、



BSL-4施設は、東京都武蔵村山市の国立感染症研究所のみで、ここは感染者が発生した際に必要となる検査・診断に特化しています。BSL-4病原体の研究を行い、診断方法や治療薬を開発するのは海外に頼っているのが実情です。長崎大学は熱帯医学研究所などで日本の感染症研究をリードしてきた実績があり、同じ坂本キャンパスにBSL-4施設の設置を計画し、昨年9月には基本構想をとりまとめました。坂本キャンパスにBSL-4施設を設置することで、研究を通じて世界に貢献するとともに専門家の人材育成を進めていきます。

BSL-4施設は、東京都武蔵村山市の国立感染症研究所のみで、ここは感染者が発生した際に必要となる検査・診断に特化しています。BSL-4病原体の研究を行い、診断方法や治療薬を開発するのは海外に頼っているのが実情です。長崎大学は熱帯医学研究所などで日本の感染症研究をリードしてきた実績があり、同じ坂本キャンパスにBSL-4施設の設置を計画し、昨年9月には基本構想をとりまとめました。坂本キャンパスにBSL-4施設を設置することで、研究を通じて世界に貢献するとともに専門家の人材育成を進めていきます。

BSL-4施設は、東京都武蔵村山市の国立感染症研究所のみで、ここは感染者が発生した際に必要となる検査・診断に特化しています。BSL-4病原体の研究を行い、診断方法や治療薬を開発するのは海外に頼っているのが実情です。長崎大学は熱帯医学研究所などで日本の感染症研究をリードしてきた実績があり、同じ坂本キャンパスにBSL-4施設の設置を計画し、昨年9月には基本構想をとりまとめました。坂本キャンパスにBSL-4施設を設置することで、研究を通じて世界に貢献するとともに専門家の人材育成を進めていきます。

住民説明会のご案内 お申し込みは不要です

坂本・山里地区のみなさまへ

世界と日本の感染症とその対策及び長崎大学が進めていますBSL-4施設計画の現状についてご説明します

年月日	時間	会場	対象
平成30年 4月12日(木)	18:30 ～20:00	江平地区ふれあいセンター (長崎市岩川町7-1)	坂本1～3丁目、江平1～3丁目、岩川町、川口町、浜口町、平野町 (平野町東部・南部自治会)
平成30年 4月17日(火)	18:30 ～20:00	山里地区ふれあいセンター (長崎市高尾町4-10)	家野町・大橋町・岡町・橋口町・上野町・平野町 (平野町山里自治会)・平和町・本尾町・高尾町・本原町・扇町・石神町・辻町・小崎町・三原1丁目

上記以外に、個別の説明のご希望がございましたら、フリーダイヤルまで、お気軽にご連絡ください。

お問い合わせ先

長崎大学感染症共同研究拠点
高度安全実験(BSL-4)施設設置準備室
http://www.ccpid.nagasaki-u.ac.jp/bsl4

〒852-8521 長崎市文教町1-14
TEL 0120-095-819
FAX 095-819-2960